

授業内容とディプロマ・ポリシーとの対応（令和4年度 教育制度論）

教職臨床特支系（教育臨床講座）・山田 誠

1. 授業の概要

（1）受講者

この科目は教員免許状取得のための必須科目である。学校教育教員養成課程初等教育コースの1回生を主な対象とするクラスとして開講された。履修登録者数は115名である。

（2）授業の目的・到達目標・関連するDP

本授業の目的は、すぐれた教員として必須の力量を身につけるため、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項についての基礎理論を理解し、改革の動向を主体的に把握することができるようになるということである。

授業の到達目標は、次の2項目である。

1) 教育の社会的、制度的又は経営的事項についての基礎知識を習得し、それらに関する基礎概念を正確に説明できる。

2) 今日の教育改革の動向を自ら正確に把握し、それらの意義・効果・問題点を主体的に考え、それを分かりやすく論述・表現できる。

本学部のディプロマ・ポリシー（DP：卒業時の到達目標）のうち関連する項目は、「1）教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」及び「3）教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。（思考・判断・表現）」を想定している。

（3）授業概要

まず、生涯教育・学習の視点から、教育の全体的構造（フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな教育）の中に学校教育を位置づけ、他の教育部門（社会教育、家庭教育）との対比を通してその特質を把握する。次に、教育システムの諸機能、教育に関する法規定及び学校安全について検討する。続いて、学校の成立と歴史的多様性、学校体系の歴史の変遷についての理解を図る。さらに、生涯学習社会の構築という改革の動向を理解すると共に、生涯学習社会における学校の役割、

学校と地域との連携の在り方について考える。

（4）授業の方法・形態

主に配付資料や板書を用いた講義形式中心の授業であるが、視聴覚教材や、発問、受講者の意見発表、小グループでの討議等を一部取り入れている。加えて、受講者との双方向性を確保するとともに、受講者における授業内容の理解・定着や思考の深化を促す手立てとして、毎回授業の最後に、コメント（振り返り）カードへの記入を求め、次の回に補足説明を行ったり、優れた記述等を紹介したりしている。また、授業時間外に図書館等を利用した自己学習・発展的学習を行った成果をコメントカードに記入・報告することを奨励している。その記述内容も含め、コメントカードの記述は、評価の対象としている。

2. 授業評価の方法

今回は、教育コーディネーター会議による「授業内容とディプロマ・ポリシー（DP）の対応に関する調査」を活用させていただき、受講者が、本授業の内容と本学部のDPとの対応についてどのように受け止めたのかに注目してみた。最終16回目の期末試験と振り返りの授業のなかで、試験終了後、URLを受講者に伝え、調査への協力を依頼した。その場での回答が難しい場合、授業後に回答してほしいと伝えた。その結果、92名からの回答が得られた。

3. 結果

上記DP対応調査は、この授業について、本学部のDPとして設定された4項目の〈学習の到達目標〉にどの程度当てはまると思うか、それぞれ「とてもそう思う」「ある程度そう思う」「あまりそう思わない」「授業の目標・内容がこのDPとは無関係である」のうちからひとつ選ぶ回答形式である。

以下、項目ごとに、「とてもそう思う」と「ある程度そう思う」とを合わせた肯定的回答の数値を、実数及びパーセンテージで示す。

1) 教育と教職に関する確かな知識と、得意

とする分野の専門的知識を修得している。
(知識・理解) :
75 (81.5%)

2) 教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。(技能) :

68 (73.9%)

*「授業の目標・内容がこのDPとは無関係である」が、4 (4.3%) あった。

3) 教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。(思考・判断・表現) :

71 (77.2%)

4) 教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。(興味・関心・意欲、態度) :

78 (84.8%)

*「授業の目標・内容がこのDPとは無関係である」が、1 (1.1%) あった。

4. 結果の考察と授業改善について

前述(1.の(2))のとおり、本授業について授業者が想定しているDPの項目は、1)と3)であり、それは本授業のシラバスに記載してもいる。結果を見ると、上記のように、1)、3)ともに、決して十分とは言えないまでも、いずれも8割前後と比較的高い数値であった。

意外であったのは、想定はしていなかった項目4)が、1)や3)よりもやや高い数値となっていたことである。この結果は、驚きでもあり、また、こうした評価を得られたことは、たいへんありがたいことでもある。

この結果を踏まえ、今後は、授業者にとっての主たる想定項目である1)、3)への対応についての評価をより一層高めよう、引き続き改善に取り組みたい。また、項目4)も、教員養成学部にとって非常に重要な目標のひとつであるだけに、本項目への対応についても、今まで以上に考慮して授業を見直し、できれば本授業の想定項目として積極的に位置づけられるよう、さらに工夫、改善を図っていきたい。